

## アルジェリアから

### アラビア諸国との交流

1980年代の個人的なシリア・ダマスカス滞在やヨルダン、イエメン、エジプトへの旅、仕事としてのチュニジア川崎重工セメント工場建設での通訳業務、1990年代のモロッコ観光周遊ツアーの添乗業務、そして2005年から(株)富士アトラス国際交流センター社の管理職者としてのサウジアラビア滞在とオマーン、アラブ首長国連邦、バハレーン訪問などを経験し、現在私は2007年後半よりアラビア22カ国のうちのひとつアルジェリアで大統領発令による鹿島、大成、間、西松の4建設会社のジョイントベンチャーの東西高速道路建設の通訳業務に携わっております。

### アルジェリアと我が国日本

私の小学校時代はアメリカからの脱脂粉乳が給食で出されておりました。アメリカのおかげで成長した事実には恩義を感じてはおります。

また、我が国が民主主義国家に成長したのもアメリカとの親密日米安保政策を60数年続けていた自民党政権によるものです。

しかし、ここまでは原爆の被災やアメリカ軍の空襲による多くの犠牲を払ってきました。

偏った我が国のメディアにより世の中は親米平和ボケ諷長にマヒしております。なぜか毎朝の民放テレビ局のニュースでは日本人の野球選手がアメリカで何本ヒットを打ったとか何億円で契約をとったとか、どうでもいいような報道にニュース番組時間の4分の1ぐらいをさいておりますが、終戦60年以上たってもアメリカに対するコンプレックスは消すことができないのでしょうか？ 早く文化的にも独立をしたいものです。

1830年代、アルジェリアは、ナポレオン失脚後、革命で首をはねられたルイ16世の弟シャルル10世の王政復古政権下のフランスにより、植民地化されました。反フランスのリーダーとして立ち上がったアブドルカーデルは初めて全アルジェリアの部族を統一してフランスに立ち向かいましたが、捕えられ、当時牢獄であったアンボワーズの城に幽閉されてしまう。以後は1962年の独立までこの地はフランスの海外県の一つとしてフランス語が公用語として教育され、いろいろな文化・社会システムがフランスのおかげでフランス本土からもたらされ近代化したのです。

近代から現代までアルジェリアが払った犠牲というのはおびただしいものです。アルジェリア出身者は近代ではズワーブ兵としてフランスのために戦い、現代でも第2次大戦、インドシナ戦争、ベトナム戦争などでもっともフランスのために多くの血を流したのがブルターニュ出身兵とアルジェリア出身兵。

さらにフランスはアルジェリア出身者に対し、第2次大戦に出兵すればアルジェリアの独立を認めると約束したが、その約束を破るばかりか、1945年5月8日ドイツでナチスが崩壊した日、フランス軍はアルジェリアのセティフで大虐殺を行いました。落下傘部隊が村人たちを穴を掘らせて生き埋めにする、妊婦の腹の中身を見るためナイフでかつさばく等、45000人が虐殺されました。

1954年からアルジェリアの独立をめざすジグードユーセフやディドゥシムラド等22名が解放評議会を結束したが、その間にフランスが行った拷問、ギロチンにかけた人数はおびただしいものでした。1960年からは核兵器が人体に及ぼす実証のため核爆発現場にアルジェリア人の村人を縛りつけるなどの人体実験を数回行っていきます。

1962年フランス本土パリではアルジェリア人のデモ隊に国家警察部隊が多くの死者を出す弾圧を行い、当時の警視総監に対する裁判はまだフランス国内で続いています。

その内政問題で失脚したシャルル・ドゴール大統領の時代1962年にアルジェリアはフランスの県のひとつから国家としての独立を勝ち得たのでした。

首都アルジェにある軍事博物館を訪れましょう。アルジェリアがフランスから受けた傷の痛さがひしひしと伝わってくることでしょう。

尚、フランスの海外県のアルジェリアと違い、フランスの保護領であったチュニジアとモロッコは1956年に独立しました。

原爆の被爆と空襲で多大な犠牲を受けた後、朝鮮戦争とベトナム戦争でアメリカへ兵器を売るなどで大儲けし、経済的に、また文化的にも飛躍をした我が国日本。フランスのために多くの血を流し、それでもフランスのおかげで近代化、社会構造的、文化的な進歩をしたアルジェリア。列強のアメリカとフランスのおかげではあるものの深い傷を持つという共通点のある日本とアルジェリアです。

## アルジェリアの経済：将来の展望

1962年の独立以来、アルジェリアの国語はアラビア語に変わりました。独立前にフランス語で教育を受けた老人層の人たちはアラビア語を解しません。

独立後アラビア語で義務教育をうけた青年層はアラビア語を自由にこなせますがフランス語能力の低下は著しく、現在は文化的過渡期であることは認めざるを得ません。ちなみに山岳部のカビリヤ族にとってはフランス語もアラビア語もどちらも外国語である以上どうでもいいことで、それよりもカビリヤ語を認めてもらいたいという闘争をしております。それに向かって殺害テロを犯すイスラム過激派たち。文化というのは血を見る恐ろしいものです。

ヨーロッパ、アメリカ、日本も含め、高齢化社会を目前にしている老人国家のわれわれに比べ、アルジェリアは 35 歳以下が人口の 60%近くになっており、天然ガス、石油を有し、他にサハラ南部では最近地下水が発見され、灌漑用水を開発させれば農業の発展は飛躍的なものになります。ところが、それらの開発のためのノウハウがないので、外国との経済発展協力が必須です。

アルジェリアはどこと協力体制を敷くべきか？

前述のフランスとのいきさつから、言葉の不自由はなくてもフランスとは手を結ばません。過去の過ちは許すことはよいことですが、忘れてはいけません。(残念ながら日本ではメディアがアメリカに対するそれを忘れさせている。)

アメリカとはイスラエルからの難民のパレスチナ人を支援している政策からイスラエルの後ろ盾のアメリカとは協力は難しい。

という、最も協力者として理想的な経済大国は日本なのです。

いつもお客さんをアラビア諸国へ案内すると皆さんが驚くことは、何故アラビア人達が日本人に対して親切であり友好的であるか、日本に興味を抱いているか、なぜ我々日本人はアラビア人達から好かれているか、ということです。私は、理由は 2 つあると思うのです。

彼らは、イスラム教徒でない我々日本人は、決して同胞とは思っていないでしょう。 ですがアメリカに立ち向かい、広島・長崎でひどい目に会ったかわいそうな国という同情。それにも負けず努力をし、アメリカと対等の経済力を持つようになったという憧れ。この同情と憧れが混ざりあった意識だと思うのです。

石油・天然ガスを有し、これからの農業発展が見越せる豊かな国でありながら、政治の汚職・腐敗などのため国民一人一人が貧しい国アルジェリア。食品のほとんどを輸入に頼っており、資源もないのに国民の生活水準の高い国日本。 豊かな貧しい国アルジェリアと貧しい豊かな国日本ががちりと手を組めば素晴らしい協力体制を創造できると思うのです。

## 密接なアラビア日本間の物質的交流と人的・文化的交流の皆無

アラビア諸国に行けばハイテク、自動車などばかりでなく、ドバイやサウジアラビアの男性がきている白い長服の生地を調べると大阪で製造されたものなどが多い。

日本でのたこ焼き。今は中国産のブヨブヨのが日本へ多く入ってきているが、それまではいっていたコリコリした美味しいタコは日本と漁業協定を結んでいるモロッコから入っていた。

物流では密な関係なのに人的な交流、文化的な交流が皆無なのは否定できない。

サミット首脳会談の参加国となっている日本へはアラビア各国の報道特派員が日本へ送られ、日本のことは秋葉原の殺害事件から、岩手・宮城の地震のことまで報道されている。報道メディアの超後進国日本ではアメリカ以外の国で何が起きているのかはさっぱりわからず、日本国民を無知にしています。

私の勤務しているアルジェリアの現場は日本から新任してくる人たちはどういった情報を得てきているのかは知らないが、アルジェリア人に対する態度が未開発後進国の無知無能な人たちと蔑視しているのが現状で大変残念なことです。植民地主義の被植民者に対するような態度をとっている者さえおり時代錯誤甚だしい光景も見受けられます。憧れの日本人達と職場を共有し、日本の企業で働きたいと夢を抱いてきた若者たちがいざ雇われ日本人と付き合ってみて、幻滅しているのが実情のようです。

我が国の企業、特に土木、建設業界では、既にすべて造り上げられている日本国内市場より、こういった未開発の国との協力を頼らねば生き残れないという認識、こういった国の若者たちに対して蔑視する態度を避け、お客さんであるという意識を持つのも必要だと思うのです。

人件費が安いという利点から、アルジェリアもしくはチュニジアに製作所を設け、こちらの港からフランス、スペイン、イタリアなどへ輸出する体制を敷き事業を興したい御希望、またはパリ(フランス)での連絡事務所開設の御希望があればご一報ください。

尚、私の愚妻はフランス人で、私自身フランスでの 2016 年までの滞在・労働許可書を保有しておりますのでお力になれます。

アラビア・ヨーロッパとの経済・文化交流についての皆様の御意見をお待ち申しております。

